

IoT を用いたシステム群 「マーケットプレイス」 解説 & 開発手順紹介

北川 貴博 (きたがわ たかひろ) フクシマガリレイ株式会社 技術開発部フードソリューション課 課長

要約 2021年に稼働を開始した厨房機器のデータ共有化基盤「インターネットオブキッチンプラットフォーム」は、まもなく稼働開始から2年を迎える。あらゆる業界でDXの必要性が語られる中、厨房機器が活躍する業界ではまだその兆しは見えていない。このプラットフォームがその大きな助けになる事を改めて解説するとともに、集約された厨房機器データを利用したソフトウェア開発の具体的な開発手順についても述べる。

1. はじめに

日本エレクトロヒートセンターが運営する「インターネットオブキッチンプラットフォーム」(以下本PF)は、厨房機器メーカー、システムベンダー、食品事業者等、厨房機器に纏わるあらゆるステークホルダーの業務効率化や新たな価値創造を目的とした、日本初の「厨房機器のデータ共有化基盤」¹⁾である。

本特集の他記事にまとめられているように、様々な機器・装置が本PFへ接続され、様々なメーカーの機器の運転データが一元的に集約され続けている。このデータは蓄積されるだけでなく、様々なユーザーが本PFのデータを利用したシステム構築を行うことが期待されている。

厨房機器業界、及びそのユーザーである飲食産業の「厨房」は極めてアナログな労働集約型産業であった。ただ近年の人手不足等の課題解決、非接触型社会への転換といった目標において、デジタル技術がその解決に大きな役割を果たす事は最早議論を持たないほど語られ尽くされている。本PFは単なるデータ収集装置ではなく、「厨房のデジタル化を強く推進するDXツール」という捉え方をすべきものである。

本稿では、本PFのデータを活用したITソリューション群「マーケットプレイス」について解説するとともに、その開発に必要な「本PFからのデータ取得方法」等について解説を行う。

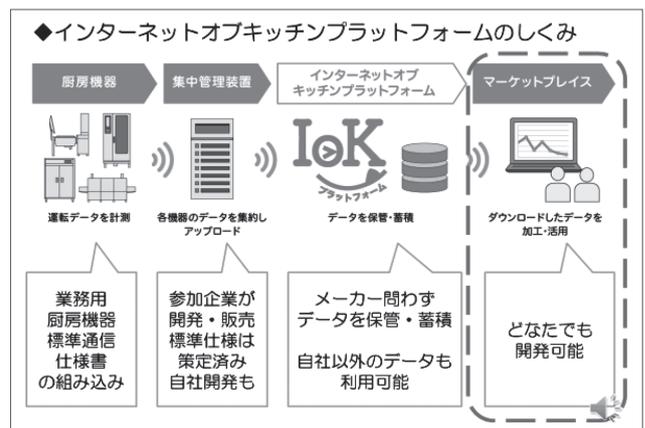


図1 本PFでのマーケットプレイスの立ち位置

2. マーケットプレイス開発のポイント

本PFはデータの収集と配信を唯一の機能として提供しており、データの帳票化・グラフ化等といったその他の機能は一切提供していない。それらの機能は全て「データをダウンロードした何らかのシステム・ソフトウェア・機器」によってエンドユーザーに提供される事を想定している。本PFでは、これらのシステム・サービス等のことを総称して「マーケットプレイス」と呼称する。

本章ではマーケットプレイスの開発に携わるシステム事業者・食品事業者等向けに、データのダウンロード仕様の参照方法の案内、サンプルダウンロードサイト紹介を行う。